

新潟民医連に加盟する法人・事業所の取り組みを紹介します。

2024年8月30日（金）

発行者：宮野 大

## 逆風の訪問介護～基本報酬の引き下げ～ 「新潟日報」が記事掲載

新潟日報(8/29-30)で、訪問介護についての記事が連載されました。記者さんとは今年3月にお会いする機会があり、これまでの間に、厚労省交渉やアンケート結果の共有、アンケートで経営が大変な事業所を紹介し、取材してもらったりしてきました。

取材先は民医連加盟法人の事業所である「ほっと新潟」もあり、記事にも出てきますので、ご紹介します。

### 8/29 ほっと新潟の取材記事

## 好きな場所で思い支え

### 逆風の訪問介護

基本報酬引き下げ

〇上〇

新潟県中央区の繁街にあるマンションで、ヘルパーの石附夕夏さん(48)は、ヘルパーが、住人の女性(70)の貼り薬を取り換えていた。

女性は一入暮らし、パーキンソン病を患う。家事を一緒にできる日もあるが、症状が変動し動けなくなることもある。週に6日朝晩2回、訪問介護を利用し、身体介護のほか洗濯や掃除などの生活援助も依頼。石附さんは薬の取り換え後は夕食の準備を進め、塩分量を規定値に収め、カレイの煮付けやタコの刺し身を食卓に並べた。女性は安心して暮らせていると感謝を伝え、食事を口にした。

国は医療や介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らせる「地域包括ケア」を掲げる。訪問介護はその要だ。「介護は、施設・護が全てじゃない」。以前、高齢者施設で働いていた石附さんは、ずっとそう感じてきたという。

### 「仕事 軽んじている証し」



訪問先で、貼り薬を取り換えるヘルパーの石附夕夏さん(新潟県中央区)

施設への入居には要件があり、有料老人ホームなどは高額で月20万円ほどかかることもある。施設では起床や就寝、食事などスケジュールが決まっている。自由には分らず暮らせることが理想と思うようになり、訪問介護のヘルパーになった。

介護士の賃金は他業種に比べて低いが「好きな場所で暮らしたい」という思いがある。石附さんは笑顔で言った。

### 『アンケート第2弾』を予定

6月から「加算」がについての経営実績が出ています。3か月分の経営成績、加算取得状況、困りごと等についてのアンケート第2弾を、9/10以降で予定しています。

引き続き、報酬改定による、訪問介護の困難な実態を明らかにし、政治や世論に訴えていきます。

8/29-30新潟日報の関連記事はこちら

<https://x.gd/sYdvX>



### 「事業継続困難」24% 関連団体アンケート

県社会保険推進協議会と県民主医療機関連合会は今年3月、県内全ての訪問介護事業所に対して、基本報酬引き下げに関するアンケート調査を実施した。398事業所のうち139事業所が回答。そのうち事業継続が困難にな

ると答えた事業所が23.7%に上った。基本報酬引き下げについては94.2%が「納得できない」と回答。介護職員の処遇改善加算などで現在、最上位の加算を算定できているかどうかについては48.9%が「できない」とした。

報酬改定による経営状況の変化については、55.4%が「悪化する」と回答し、「改善が見込まれる」とした事業所は1.5%だった。同協議会は「事業を継続できなくなる事業所が増える可能性があり、深刻だ」とし、9月にもアンケートを実施して経営状況を把握し、国に報酬の見直しを求めていくとしている。

### 8/30アンケート記事